



プログラミングを体験する親子ら 岐阜市柳津町、岐阜聖徳学園大

プログラミング楽しい

岐阜県大会を前に体験会

2022年全国選抜小学生プログラミング大会県大会(岐阜新聞社、岐阜放送など主催)の説明会と体験会が岐阜市柳津町の岐阜聖徳学園大で開かれ、親子ら60人がプログラミングに触れた。

8月中旬から作品募集をスタートする県大会の前段として、対面とオンラインで開催。教育向けプログラミング言語のビスケットとスクラッチの2種類を学んだ。イラストを直感的に動かしてプログラムするのがビスケット、画

面上のブロックをつなぎ合わせてプログラムに仕上げるのがスクラッチで、子どもたちはそれぞれの言語の特性を知り、オリジナルのプログラムを組み立てた。

今年で第2回の全国選抜小学生プログラミング大会県大会は、岐阜聖徳学園大DX推進センターとの共催。責任者の芳賀高洋教授は「技術的なことよりも、企画力や発想のレベルの高い応募作品を見てみたい」と期待した。

母親と参加した小野鈴真

君(11)は「全国大会へ行くような作品を仕上げたい」と笑顔で話した。

大会のテーマは「みんなの mirai」。プログラミング言語の種類は問わない。応募資格は小学生。大会ホームページの応募フォームからデータなどを送る。締め切りは10月14日。

(三輪真大)